

---

2022～2023 年度「統合科目」の教育活動を振り返る

賀数いづみ（卒業演習・看護統合実習・看護卒業論文/看護総合演習）

---

### 教育上の課題と工夫

---

教務委員長を科目責任とする 4 年次の統合科目を振り返る。

「卒業演習」は 2022～2023 年度ともに、事前の体調確認、講義室の換気やマスク着用等の基本的感染対策を徹底して対面で筆記試験を実施した。試験当日の体調不良者は別室受験もしくは追試験で対応した。また、技術試験については教務委員会での検討をふまえ、コロナ禍以前の領域毎の課題ではなく全領域統一した課題で実施した。コロナ禍における技術試験の運営方法を活かし、学生の集合時間や待機時間を短縮して拘束時間を減らし、試験当日の学生の負担を軽減した。教員も可能な部署は交代配置にする等、7 月末の猛暑期の教員の負担も減らすことができた。また、技術試験では「オリエンテーション」を遠隔で実施する場面もあったが、これまでの遠隔学習経験から、学生・教員ともに戸惑うことなく円滑に実施できた。

「看護統合実習」は、2022～2023 年度ともに施設の状況によっては実習時間の制限や実習期間中の学内実習もあったが、教員及び学生、施設の努力によって学生全員が臨地実習を経験することができた。実習開始 2 週間前からの体調や家族の健康状態の確認など、施設によっては詳細な健康観察の報告を求めることもあったが、適時に施設と詳細な調整を実施し、支障なく実習できたように思う。2022 年度は実習開始 48 時間以内の PCR 検査陰性の報告や学生のコロナワクチン接種歴の報告が必要な施設や、施設の受け入れ条件によって受け入れを制限された学生もおり、急遽実習先を新規開拓して対応した。

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行後は、実習学生のコロナワクチン接種歴の報告不要、実習施設内での昼食摂取が可能になるなど、受け入れ施設の条件にも変更があった。2022～2023 年度は学生の健康管理意識の向上や報告・連絡・相談の徹底、状況に応じて施設の指導者と丁寧に調整を重ねて対応したことによって感染の拡大はなかった。また、軽度の体調不良者へは本人の同意によってカンファレンスへの遠隔参加を取り入れるなど教員も柔軟に対応しており、コロナ禍での遠隔学習の経験が活かされていた。

「看護卒業論文/看護総合演習」は 2022～2023 年度ともに「看護統合実習」における看護実践を通してまとめることができた。学習成果発表会はハイブリッド開催で一部音声の不具合はあったが、全体として円滑に実施された。実習施設からの遠隔 (Zoom) 参加者も多く、臨地指導者からの温かいコメントからは、学生らの看護統合実習への熱心な取り組みの様子や臨地実習指導者の熱意が伝わり、学生の今後の励みになると思われた。これらは、ハイブリッド開催の積み重ねによる成果であり、発表プログラムの早期作成及び関係施設への事前送付など運営面の関係者の努力によるものと考えられる。

---

### コロナ禍の教育活動を振り返って

---

2022～2023 年度は、「看護統合実習」において全学生が臨地での看護実践を通して「看護卒業論文/看護総合演習」をまとめ、発表できた。この経験は、看護の場で働く上で貴重な体験となると考える。「学習成果発表会」のハイブリッド開催は、実習施設の参加者を増やし、臨地実習指導者の実践的なコメント等は、学生の今後につながる心強いエールに思えた。コロナ禍の教育活動を経験して遠隔学習スキルの向上や対面学習の良さを再確認できた。これらの経験からの学びを今後の教育活動に活かしていきたい。

---